

# すかい

地域を見つめる経済情報誌

## 長野しんきん 北信地区経済動向

2023  
令和5年  
3-20  
No.607

「すかい」(sky: 空)は、北信地区経済の空模様を展望しながら、経済面からとらえた身近な情報をおとどけます。

### 月例調査レポート



#### 中野土びな 鯛引き (奈良久雄 作)

北信濃に春の訪れを告げる風物詩、中野ひな市は3月末に開催されます。土雛は粘土を素焼きして、色付けした素朴な人形。江戸時代に高価なひな人形を買えない庶民に愛され親しまれました。以後、明治大正と北信濃の節句に、雛段を飾ったのは、家の隆盛や子供の成長を願い、毎年ひな市で買ってきた土雛でした。昭和になってこの風習は廃れてしまいましたが、今日なお雪国の風土に溶け込んだ土雛は、時代を超えて人々にぬくもりを届けます。

『へな土の 雛も同じ 祭りかな』一茶 八番日記 (注:へな土は粘土のこと)

- 長野しんきん 月例調査レポート ..... 2
- 企業アンケート 2023年の「経営見通し」③ ..... 6
- インタビュー 変革期の経営ビジョン ..... 8
- 北信濃 明治時代の風景 (12) 横山城跡 ..... 10

「すかい」は長野信用金庫のホームページでカラーにてご覧いただけます [長野信用金庫 すかい](#)



 長野信用金庫

# 概況 全産業

## 生産は2カ月ぶりの上昇 前年同月比は3カ月ぶりの上昇

### ◇2022年12月の長野県鉱工業指数

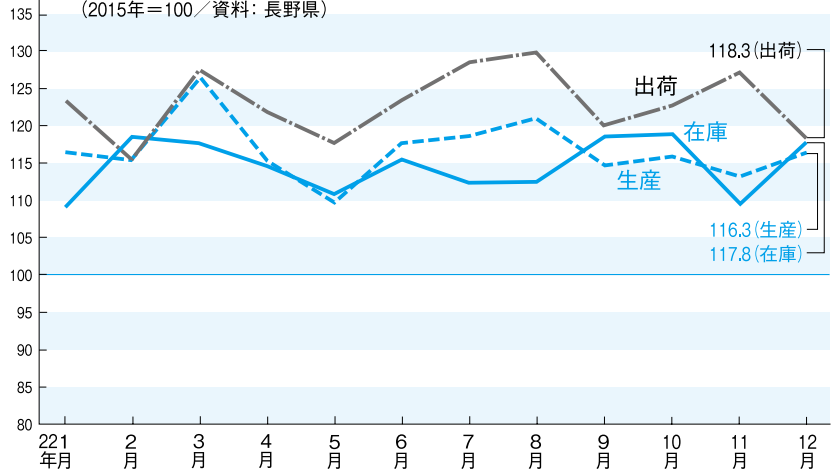
(速報：季節調整済指数)

生産は116.3(前月比+2.9%)で2カ月ぶりの上昇、出荷は118.3(同▲6.8%)で3カ月ぶりの低下、在庫は117.8(同+7.5%)で2カ月ぶりの上昇となりました。

### ◇前年同月比(原指数)

生産は119.7(前年同月比+0.3%)で3カ月ぶりの上昇、出荷は124.0(同+0.7%)で2カ月ぶりの上昇、在庫は120.0(同+10.1%)で15カ月連続の上昇となりました。

●長野県鉱工業の生産・出荷・在庫指数(季節調整済)の推移  
(2015年=100/資料：長野県)



- [生産] 上昇…食料品、情報通信機械、輸送機械など9業種  
低下…金属製品、その他、電子部品・デバイスなど7業種
- [出荷] 上昇…輸送機械、窯業・土石製品、木材・木製品など4業種  
低下…はん用・生産用・業務用機械、化学、その他など13業種
- [在庫] 上昇…化学、その他、電子部品・デバイスなど11業種  
低下…情報通信機械、窯業・土石製品、非鉄金属など5業種

## 月例調査

### 全産業の「売上高」は横ばい

前回調査 2022年12月

### ◇2月調査による[北信地区の経済状況]

全産業(不動産業・旅館業除く)の売上高前年比「増加・減少」割合は、前回到比べ「増加」割合(35

%)が横ばい、「減少」割合(27%)が1ポイント減少、「不変」割合(38%)は1ポイント増加、全体としては横ばいの状況です。

### ●売上高(生産高・施工高)前年比「増加・不変・減少」割合

矢印は前回調査比 (3ポイント以上の動き) ↑ 増加 → 不変 ↓ 減少  
改善 不変 悪化

業種	前回	今回	変化	改善/悪化	調査対象数	回収率	30人未満	30人以上
全産業	35.1 ↓	34.6	増加 →	改善	193社	84.6%	75.1%	24.9%
製造業	29.7 ↓	29.7	不変 →	悪化	192社	84.2%	72.9%	27.1%
建設業	34.4 →	34.5	不変 →	悪化	64社	79.0%	64.1%	35.9%
卸小売業	34.4 →	34.5	不変 →	悪化	61社	85.9%	85.2%	14.8%
サービス業	24.4 →	24.4	不変 →	改善	41社	85.4%	82.9%	17.1%
輸送業	50.0 ↓	50.0	不変 →	悪化	7社	87.5%	85.7%	14.3%
外食業	50.0 ↑	50.0	不変 →	改善	10社	100.0%	30.0%	70.0%
外食業	88.9 ↑	88.9	不変 →	改善	9社	90.0%	44.4%	55.6%

# 製造業

食料品、金属加工品、一般機械、電気機械、自動車部品、精密機械

## 「生産高」食料品・一般機械・電気機械が増加するも、全体は減少

製造業の生産高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(30%)が7割減少、「減少」割合(25%)が2割減少、「不変」割合(45%)が8割増加、全体として減少の状況です。

### ●生産高前年比「増加・減少」割合(%)

製造業	前回	36.5	36.5	27.0
	今回	増加 29.7	不変 45.3	減少 25.0
食料品		35.7	50.0	14.3
金属加工		18.2	54.5	27.3
一般機械		37.5	37.5	25.0
電気機械		16.7	50.0	33.3
自動車部品		60.0	20.0	20.0
精密機械		16.7	50.0	33.3

【業種別】 増加…食料品・一般機械・電気機械

横ばい…精密機械

減少…金属加工・自動車部品

【機械稼働】 (前回比) 稼働率 下降

上昇割合 (16%) → 13%

下降割合 (17%) → 21%

【受注状況】 受注量 (前回比) 下降

増加割合 (24%) → 18%

減少割合 (18%) → 22%

受注残高 (1.7ヵ月) → 1.7ヵ月

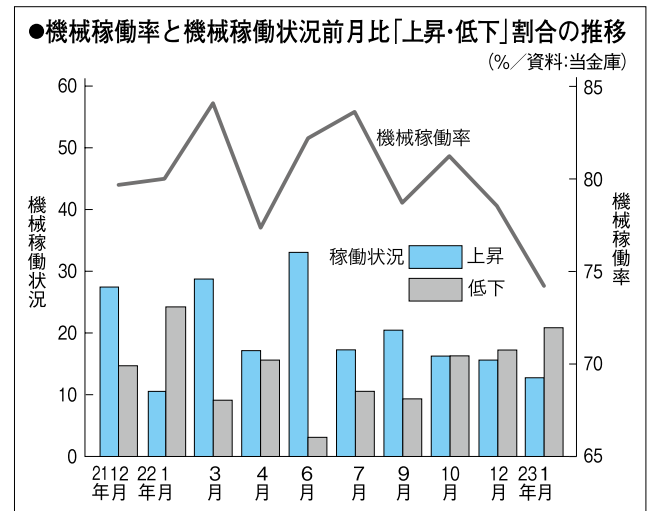
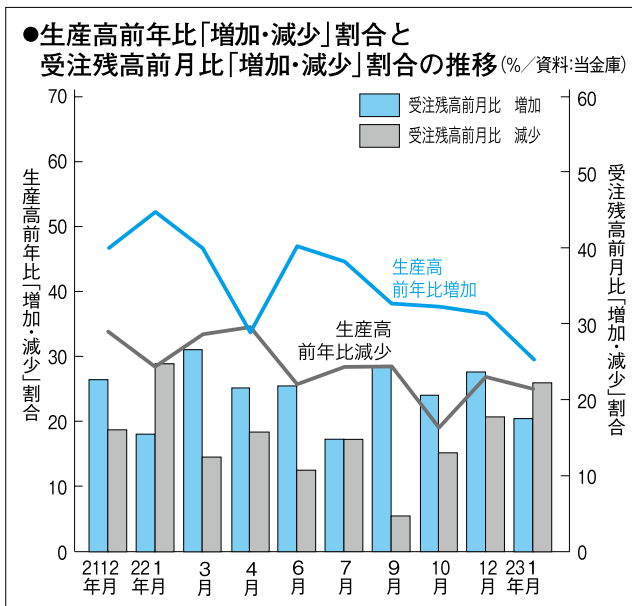
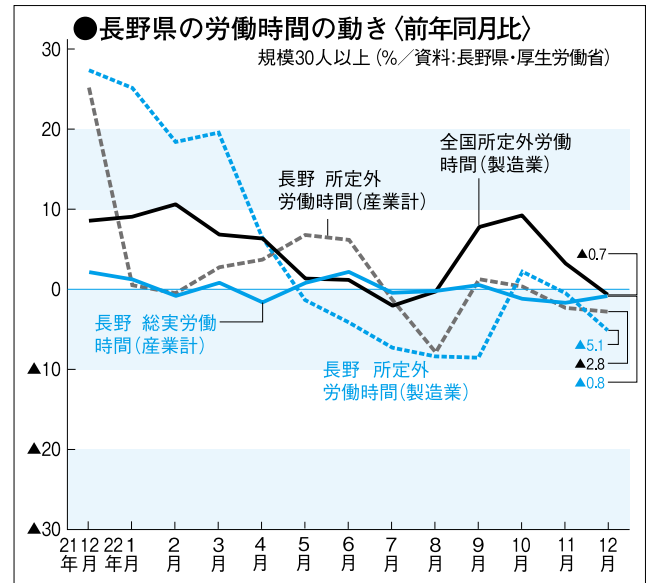
【受注基調】 (前回比) 下降

上昇割合 (22%) → 14%

下降割合 (21%) → 29%

### 企業からのコメント

- ★仕入先から再々の値上げ要請が続いているが、製品価格へ転嫁するタイミングに苦慮している。(絶縁体)
- ★電気料金の値上げが製造業を直撃している。工場を稼働するのに、省エネ等で対応するには限界がある。(そば製造)
- ☆★受注は回復し、追加注文も増加しているが、部品調達の遅れで生産が低下している。なお、物価の値上がりで収益は厳しい状況にある。(投影機)
- ★新型コロナ以前の受注に戻る予定だったが、自動車内蔵メーターの入手が減少したため、目前で大幅な生産調整を行わざるを得なくなった。(トランスミッション)
- ★小麦粉だけでなく、塩などの調味料も値上がりが続いている。(中華食材)
- ★原材料や石油関連のエネルギー経費の増大で、利益が取れない時代になっている。(乾麺)



# 建設業

総合建設、土木工事、建築、各種設備

## 「施工高」各種設備が増加するも、全体は減少

### 概況

建設業の施工高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(34%)が2割減少、「減少」割合(31%)が4割増加、「不変」割合(35%)が2割減少、全体としては減少の状況です。

#### ●施工高前年比「増加・減少」割合(%)

建設業	前回	35.5	37.1	27.4
	今回	増加 34.4	不変 34.5	減少 31.1
総合建設業		33.3	33.4	33.3
土木工事業		16.7	16.6	66.7
建築業		23.8	47.6	28.6
各種設備業		45.5	36.3	18.2

【業種別】 増加…各種設備

減少…総合建設・土木工事・建築

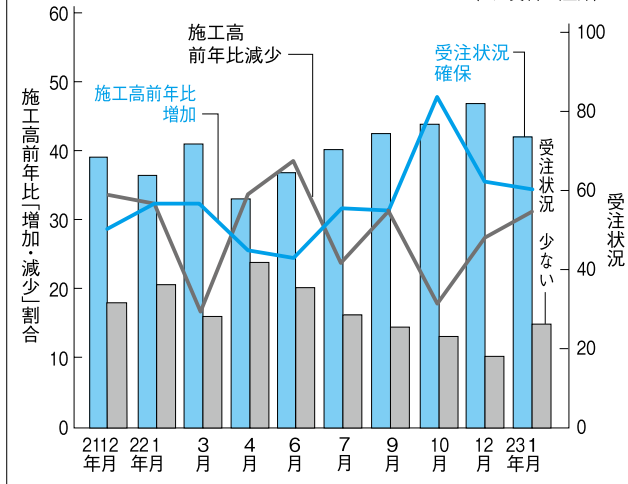
【受注状況】 受注残高(前回比) 減少

「多い・適正」割合 (82%) → 74%

「少ない」割合 (18%) → 26%

#### ●施工高前年比「増加・減少」割合と受注状況の推移

(%/資料:当金庫)



### 企業からのコメント

☆★受注残は近年になく多いが、大手建設会社の案件は価格転嫁が厳しく、利益確保も厳しい状況。今後の受注は、価格交渉を主にした営業展開を予定する。

(内装仕上工事)

★住宅は建てたいが、物価高による足踏み状況が見られる。業界の動きは、個人から法人への受注確保にシフトしている。

(総合建設業)

### 1月の公共工事 (東日本建設業保証取扱分)

長野県の4月～1月の発注合計は、1,741.7億円(前年同期比▲15.7%)となりました。前年比マイナスは「国」の310.6億円(同▲30.8%)、「県」の585.1億円(同▲3.6%)、「市町村」の550.4億円(同▲2.6%)、「その他」の289.0億円(同▲34.3%)です。

北信地区市町村の発注合計は161.9億円(同+17.6%)で、うち長野市は66.8億円(同+5.5%)でした。

#### ●建設業保証取扱分から見た長野県と北信地区市町村の公共工事の状況(2023年1月/2022年4月～2023年1月累計)

(単位=百万円/資料:東日本建設業保証株)

		2023年1月	前年同月比	2022年4月～2023年1月	前年同期比
長野県	国	7,757	+134.0%	31,060	▲30.8%
	県	4,668	+13.8%	58,509	▲3.6%
	市町村	1,758	▲45.3%	55,038	▲2.6%
	その他	359	▲74.4%	28,899	▲34.3%
	合計	7,561	▲16.5%	174,170	▲15.7%
北信地区	市町村	487	▲42.8%	16,193	+17.6%
	(内長野市)	203	▲73.7%	6,677	+5.5%

### 4～1月の新設住宅着工戸数

長野県の4～1月の新設住宅着工戸数は10,591戸(前年同期比+3.4%)でした。持家が5,642戸(同▲9.5%)、貸家が2,991戸(同+19.6%)、分譲が1,919戸(同+33.3%)、給与が39戸(同▲41.8%)です。

北信地区の4～1月の新設住宅着工戸数は2,946戸(同+0.8%)でした。持家が1,468戸(同▲16.1%)、貸家が776戸(同+9.3%)、分譲が699戸(同+58.1%)、給与が3戸(同▲85.7%)です。

#### ●北信地区と長野県の新設住宅着工戸数

(2023年1月/2022年4月～2023年1月累計)

(資料:長野県)

		持家	貸家	分譲	給与	合計
北信地区	1月	134戸	64戸	165戸	0戸	363戸
	(内長野市)	92戸	22戸	152戸	0戸	266戸
	前年同月比	▲5.2%	+42.2%	+277.3%	▲100.0%	+43.1%
	(内長野市)	▲10.7%	▲51.1%	+424.1%	—	+50.3%
	4～1月	1,468戸	776戸	699戸	3戸	2,946戸
前年同期比	▲16.1%	+9.3%	+58.1%	▲85.7%	+0.8%	
長野県	1月	460戸	243戸	234戸	5戸	942戸
	前年同月比	▲5.5%	▲10.0%	+77.3%	▲75.0%	+3.6%
	4～1月	5,642戸	2,991戸	1,919戸	39戸	10,591戸
前年同期比	▲9.5%	+19.6%	+33.3%	▲41.8%	+3.4%	



## 卸小売業

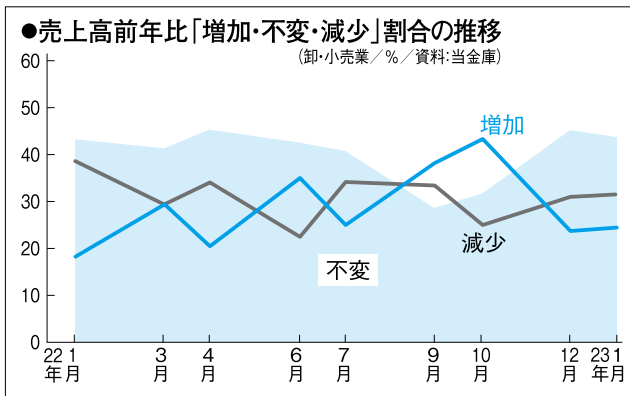
卸売業、小売業

### 「売上高」卸売が減少、小売は増加

卸小売業の売上高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(24%)が横ばい、「減少」割合(32%)が1割増加、「不変」割合(44%)が1割減少し、全体として売上げは横ばいの状況です。

#### ●売上高前年比「増加・減少」割合(%)

卸小売業	前回	23.8	45.2	31.0
	今回	増加 24.4	不変 43.9	減少 31.7
卸売業		17.6	47.1	35.3
小売業		29.2	41.6	26.2



[業種別] 増加…小売業 減少…卸売業

1月の消費者物価指数(長野市) 2020年基準=100

◇総合指数(確報値)……106.1 (17カ月連続プラス)

(前月比+0.7%、前年同月比+5.4%)

上昇…「食料」「教養娯楽」「光熱・水道」「住居」

「保健医療」「交通・通信」

下落…「被服及び履物」「家具・家事用品」「諸雑費」

◇生鮮食品を除く総合指数…105.6 (18カ月連続プラス)

(前月比+0.3%、前年同月比+5.1%)

#### 企業からのコメント

★“ウクライナ情勢”の影響で原材料の値上がりが顕著。生コンは4月から2,000円/㎡の値上げ予定。

(生コン卸・販売)

☆★善光寺に参拝する観光客の人出は一時より増えてきたが、団体旅行客がまだ来ない。

(土産品)

★時代の流れ(変化)が著しく、当店の商品動向にも現れている。正月や節句行事もだが、一番は結婚しない人が増えているので、利用される商品が売れない。すべてが変化していると思う。

(和洋菓子)

★食品全般が値上げで、果物は嗜好品のため厳しい。

野菜は、寒波が来ると、てきめん相場が上がる。

(青果卸)

## サービス業

サービス、輸送、外食、観光、不動産

### 「売上高」サービスは減少、輸送・外食は増加

サービス業 売上げ高前年比「増加」割合は7割減少の50%、「減少」割合は2割増加の17%、「不変」割合は5割増加の33%と、売上げは減少の状況です。

輸送業 売上げ高前年比「増加」割合は17割増加の50%、「減少」割合は14割減少の30%、「不変」割合は2割減少の20%と、売上げは増加の状況。タクシーは増加、運輸は横ばいです。

外食業 売上げ高前年比「増加」割合は26割増加の89%、「減少」割合は13割減少の0%、「不変」割合は14割減少の11%と、売上げは増加の状況です。

観光(旅館)業 入込数は平均で前月比6割の減少、前年同月比は21割の増加で、宿泊利用は伸びています。

不動産業 需給状況は前回に比べ、「双方手控え・どちらも低調」が18割減少の22%、「引合いやや増加」が23割増加の33%でした。

#### 企業からのコメント

★ドライバーの労働時間に上限が設定されることで生じる「物流の2024年問題」が間近となり、輸送力の逼迫が懸念される。

(トラック輸送)

★相変わらず長野市内の土地価格は、高値が続いている。しかし、仕入側は、資材の価格が高騰しているため、価格には慎重を期する。

(不動産)

☆昨年に比べ、新型コロナが多少落ち着いてきたので、来店客も例年の同月に比べ増加している。

(そば)

#### ●売上高前年比「増加・減少」割合(%)

サービス業	前回	57.1	28.6	14.3
	今回	増加 50.0	不変 33.3	減少 16.7
輸送業	前回	33.3	22.3	44.4
	今回	50.0	20.0	30.0
うちタクシー業		66.7	0.0	33.3
うち運輸業		42.9	28.5	28.6
外食業	前回	62.5	25.0	12.5
	今回	88.9	0.0	11.1

業界の市場の将来性 「拡大する」5% 「縮小する」32%

重点的な経営課題 「人材の確保・育成」「事業の販路・市場拡大」  
「製品・サービスの高付加価値化」

アンケート  
2023年の経営見通し ③  
2022年12月調査

**業界の市場の将来性** 「拡大する」が5%、「縮小する」が32%、「横ばい」が45%となり、昨年に比べ「拡大する」は+1ポイント、「縮小する」は+3ポイントとなっています

**重点的な経営課題** 昨年に比べ「人材の確保・育成」(52%)は+1ポイント、「事業の販路・市場拡大」(36%)は+6ポイント、「製品・サービスの高付加価値化」(32%)は+7ポイント、「設備投資(老朽設備の更新)」(21%)は+3ポイント、「経費削減による収益力強化」(20%)は▲7ポイント、「新たな収益源の確立」(18%)は▲7ポイント、「資金調達・資金繰り改善」(12%)は▲2ポイント、「新たな仕入先の開拓」(12%)が加わり、ここまでが2ケタとなっています。

業界の市場の将来性  
「横ばい」30人以上42%

「業界の市場の将来性をどのように認識しているか」を聞きました。

45%の企業は「市場規模は横ばいで進む」と答えています。32%の企業が「縮小する」と答え、「拡大する」は5%に過ぎません。これは昨年に比べると、「拡大する」が+1ポイント、「横ばい」が▲10

ポイント、「縮小する」が+3ポイントとなりました。

**従業員規模**で見ると、30人未満は30人以上より「拡大する」が3ポイント高く6%、「横ばい」が5ポイント高く47%、「縮小する」が8ポイント低く30%です。30人以上は30人未満より「拡大する」が3ポイント低く3%、「横ばい」が5ポイント低く42%、「縮小する」が8ポイント高く38%となっています。

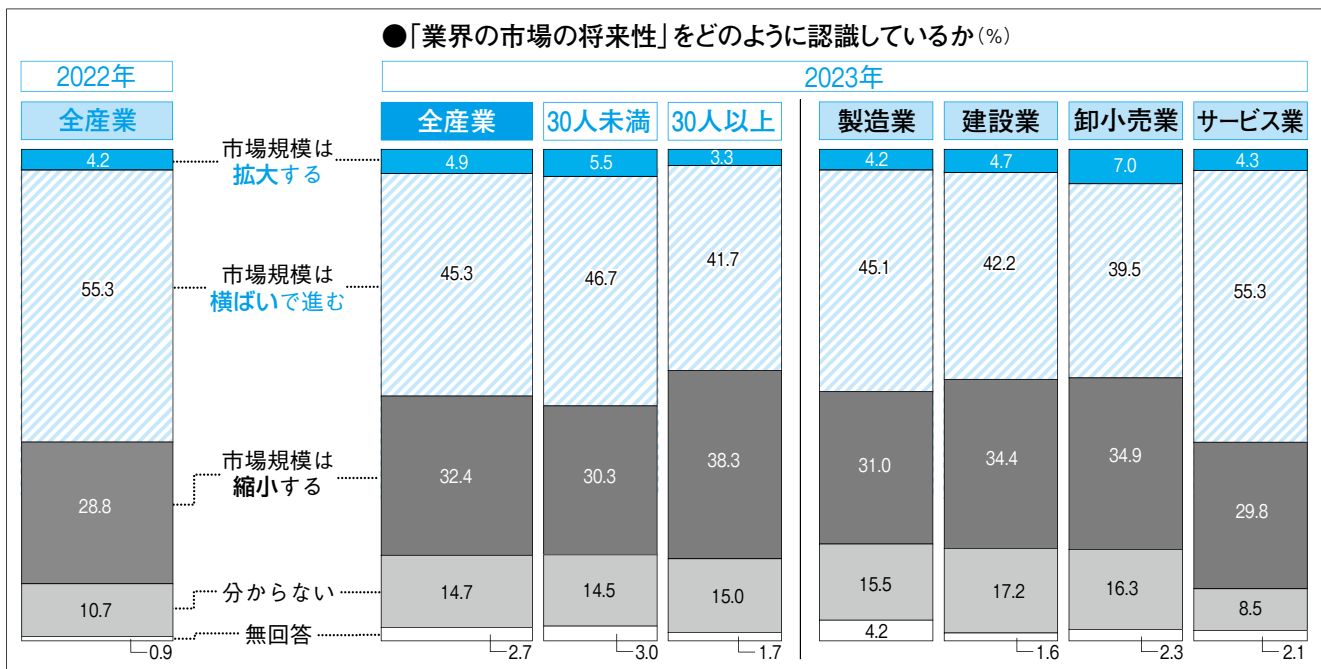
業種別  
全業種が「低下」

◇4業種(前年比・全産業比)

**製造業** 前年比「拡大」は▲5ポイントの4%、「横ばい」は▲11ポイントの45%、「縮小」は+7ポイントの31%となり、低下しました。「拡大」は他業種に比べ最も低く、「縮小」はサービス業に次いで低くなっています。

**建設業** 前年比「拡大」は+3ポイントの5%、「横ばい」は▲11ポイントの42%、「縮小」は▲2ポイントの34%となり、やや改善しました。「拡大」、「縮小」はともに卸小売業に次いで高くなっています。

**卸小売業** 前年比「拡大」は+7ポイントの7%、「横ばい」は▲10ポイントの40%、「縮小」は+1ポイントの35%となり、やや改善しました。「拡大」、「縮小」はとも



に他業種に比べ最も高くなっています。

**サービス業** 前年比「拡大」は▲1割の4%、「横ばい」は▲8割の55%、「縮小」は+8割の30%となり、低下しました。「横ばい」は他業種に比べ最も高く、「縮小」は他業種に比べ最も低くなっています。

### 重点的な経営課題

- 「人材の確保・育成」52%
- 「事業の販路・市場拡大」36%
- 「製品・サービスの高付加価値化」32%
- 「設備投資(老朽設備の更新)」21%
- 「経費削減による収益力強化」20%

「今後、重点的に取り組みたい経営課題は何か」を聞きました。

上位5項目を見ると「人材の確保・育成」(52%)、「事業の販路・市場拡大」(36%)、「製品・サービスの高付加価値化」(32%)、「設備投資(老朽設備の更新)」(21%)、「経費削減による収益力強化」(20%)となっています。

従業員規模で見ると、30人以上で「人材の確保・育成」(57%)が6割、「製品・サービスの高付加価値化」(47%)が2割、「事業の販路・市場拡大」(42%)が7割、「老朽設備の更新」(27%)が7割、「新たな収益源の確立」(25%)が9割、「生産拡大や新分野進出」(8%)が7割、30人未満より上回っています。30人未満で「新たな仕入先の開拓」(14%)が7割、「新規事業分野への参入」(9%)が5割、30人以上より上回っています。

### 業種別

- 「人材の確保・育成」建設69% / 卸小売42%
- 「事業の販路・市場拡大」卸小売44% / サービス32%
- 「製品・サービスの高付加価値化」サービス38% / 建設19%
- 「設備投資(老朽設備の更新)」製造32% / 建設6%
- 「経費削減による収益力強化」建設25% / 卸小売12%

### ◇4業種(全産業比)

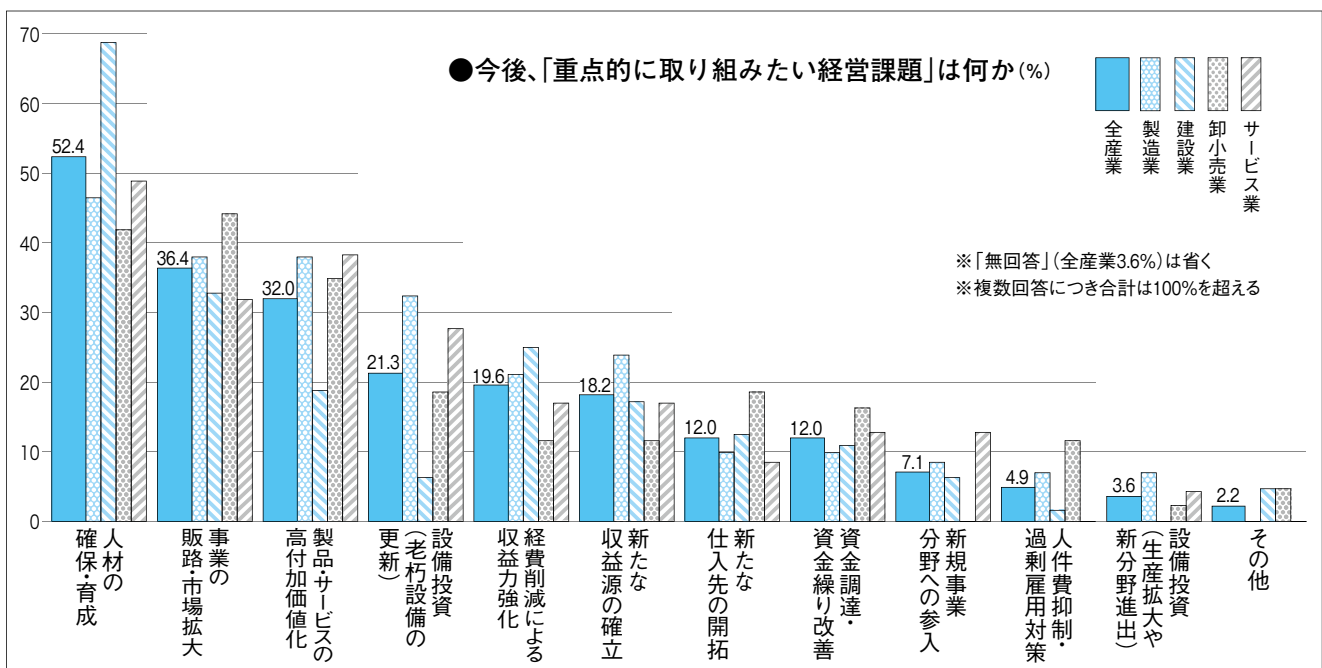
**製造業** 「老朽設備の更新」「新たな収益源の確立」「生産拡大や新分野進出」は他業種に比べ最も高くなっています。他方「資金調達・資金繰り改善」は他業種に比べ最も低くなっています。

**建設業** 「人材の確保・育成」「経費削減による収益力強化」は他業種に比べ最も高くなっています。他方「製品・サービスの高付加価値化」「老朽設備の更新」「生産拡大や新分野進出」は他業種に比べ最も低くなっています。

**卸小売業** 「事業の販路・市場拡大」「新たな仕入先の開拓」「資金調達・資金繰り改善」「人件費抑制・過剰雇用対策」は他業種に比べ最も高くなっています。他方「人材の確保・育成」「経費削減による収益力強化」「新たな収益源の確立」「新規事業分野への参入」は他業種に比べ最も低くなっています。

**サービス業** 「製品・サービスの高付加価値化」「新規事業分野への参入」は他業種に比べ最も高くなっています。他方「事業の販路・市場拡大」「新たな仕入先の開拓」「人件費抑制・過剰雇用対策」は他業種に比べ最も低くなっています。

◇次号は「人手不足」に関するアンケートを予定





## 社員と同じ目線で 切磋琢磨していく

有限会社 柳沢建材  
代表取締役社長 柳沢茂博さま

### ●創業の経緯をお聞かせください…

私の祖父である柳沢清太郎が1950年(昭和25)に、千曲川大正橋付近で、砂・砂利を採取し、生コン材料として販売をするために起業したのが始まりです。

1971年(昭和46)、材料販売から生コン業自体にシフトして製造・販売を開始しました。当時お世話になっていた骨材会社が戸倉町上徳間(現千曲市)にあり、ちょうど隣が空いていたことから、その場所に事務所と工場を移転し、現在に至っています。

### ●社長になられた経緯をお聞きます…

私は高校を卒業後、東京の生コン製造会社へ就職。主に品質管理の仕事をしてながら知識を学び、2年後に柳沢建材に入社しました。創業者である祖父が60歳になったときに社長職を私の父に引き継いだように、父も60歳になった2009年(平成21)、事業承継をし、私が社長に就任しました。38歳のときでした。

### ●業務の概要をお聞きます…

住宅などの建造物を建てる時は、まず最初に“基礎工事”を行います。型枠業者が型枠を組み、その中に生コンクリートを流し込み建物の基礎部分を作るわけです。この生コンクリートの製造・販売をすることが当社の業務で、建物の土台になる非常に重要な業務だと思っています。

当社の生コンは、千曲川から骨材(砂・砂利)を採取して、セメントと水を混ぜ合わせて製品にしています。この骨材とセメントとの配合が非常に重要なポイントで、季節ごとの気温や湿

度によって、何をどのくらい混ぜるのかを決めて管理しています。生コンは、製造から2時間で凝固が始まりますから、時間との勝負にもなります。夏は凝固遅延材を入れ凝固を遅らせています。また、強度はJIS(日本産業規格)で厳格に決められていますから、外部の検査機関に依頼していますが、自社でも強度検査を実施して“品質管理”には万全を期しています。

生コンは、製造して型枠に入れても、まだ「半製品」です。コンクリートは、28日(4週間)経って固まり、JISの指定強度になって、初めて製品になるわけです。

現在、当社周辺にある生コン製造会社は、長野地区に7社、上田地区に5社あり、どちらの地区にも生コン組合があります。会社を引き継いだ若い頃は、どちらの組合にも加入せず、組合よりも安い価格で仕事を多く受注し、「どこでも行きます」という“アウト操業”的な営業方法で業績を伸ばしていました。

しかし、6年前から売上げが右肩下がりになり、人件費や設備費など将来を考えたとき、自分ひとりの力では出来ないだろうから、組合と争うのではなく、加入する方がメリットが大きいだろうと考え、組合に加入する道を5年前に選択しました。当社は千曲市にあり地理的な関係から「長水生コン」、「上水生コン」の両方の組合に加入しています。その際、両組合の理事の皆さんに直談判して、組合への加入を認めていただきました。

組合では、品質管理を徹底するための検査が一年に一度あり、検査に合格すると“認定シール”をいただけます。現在は「生コンが売れにくい時代」なので、組合が全ての仕事を買って手数料をいただき、各生コン工場に出荷指定をして代金を支払う「共同販売」というシステムになっています。結果としてどこから購入しても同じ品質の生コンが購入できる仕組みとなっ



ています。

●“コロナ禍”の影響についてお聞きします…

当社の業務は、屋外での作業が主で、運搬も一人で行きますから、新型コロナウイルス感染症による影響は少なく、また収益の悪化や資材の入荷遅延などありませんでした。しかし、昨年からの“ウクライナ情勢”や“円安”などによる原材料高騰の影響は大きく、売りに響いています。今後も様々な要因が起きるでしょうから、組合と共に注視し、対処していかなければと考えています。

●今後の夢や方針についてお伺いします…

当社の社員は、10年以上勤務しているベテランが多いのですが、平均年齢は42歳と比較的若く、皆で信頼関係を築いてくれています。私は社員に「いつも皆さんと同じ目線で仕事をしている」と伝えています。社員の方も、“社長だから”という肩の張った付き合い方をせず、フラ



本社のセメントプラント

ンクに接してくれています。社員からの良い意見は参考にして、全員が切磋琢磨し、技術が伸びるようにしていくことが、会社にとって一番重要と考えています。

私は現在51歳ですが、そろそろ後継者を育てたいと考えています。祖父と父が土台を築いてくれた会社ですから、今後も長く続いていって欲しいと思っていたところ、2年前に次男が入社してくれました。私が入社した時と同じ年齢です。父が60歳のときに事業承継したように、9年後に会社を継いでくれたら…と願っています。



セメントの強度検査

●事業の概要

設立 1950(昭和25)年  
資本金 500万円  
代表者 柳沢茂博  
従業員 10名(男10名)契約社員含む  
業務 窯業・土石産業  
事業所 千曲市大字上徳間722

●沿革

1950(昭和25)年 柳沢清太郎が砂利運搬業を開業  
1971(昭和46)年 生コン製造・販売を開始  
1974(昭和49)年 千曲市上徳間に工場移転  
2009(平成21)年 柳沢茂博が代表取締役就任

# 北信濃 明治時代の風景

## (12) 横山城跡

長野郷土史研究会会長

小林 一郎



今年度は、明治10年代に各町村が長野県に提出した町村誌に描かれた挿絵を紹介します。今回は明治15年(1882)ころできた『長野町誌』の横山城跡の図ですが、不鮮明なため『水内郡古跡名勝絵図』にある同じ図を使用しました。

### 絵を読む

善光寺東側の、城山を描いた平面図です。右上に「長野町 本城墟」と書いてあります。城山の丘陵は仮寝が岡という風流な名前がありますが、城跡は本城と呼ばれていました。現在は横山城跡というのが正式です。

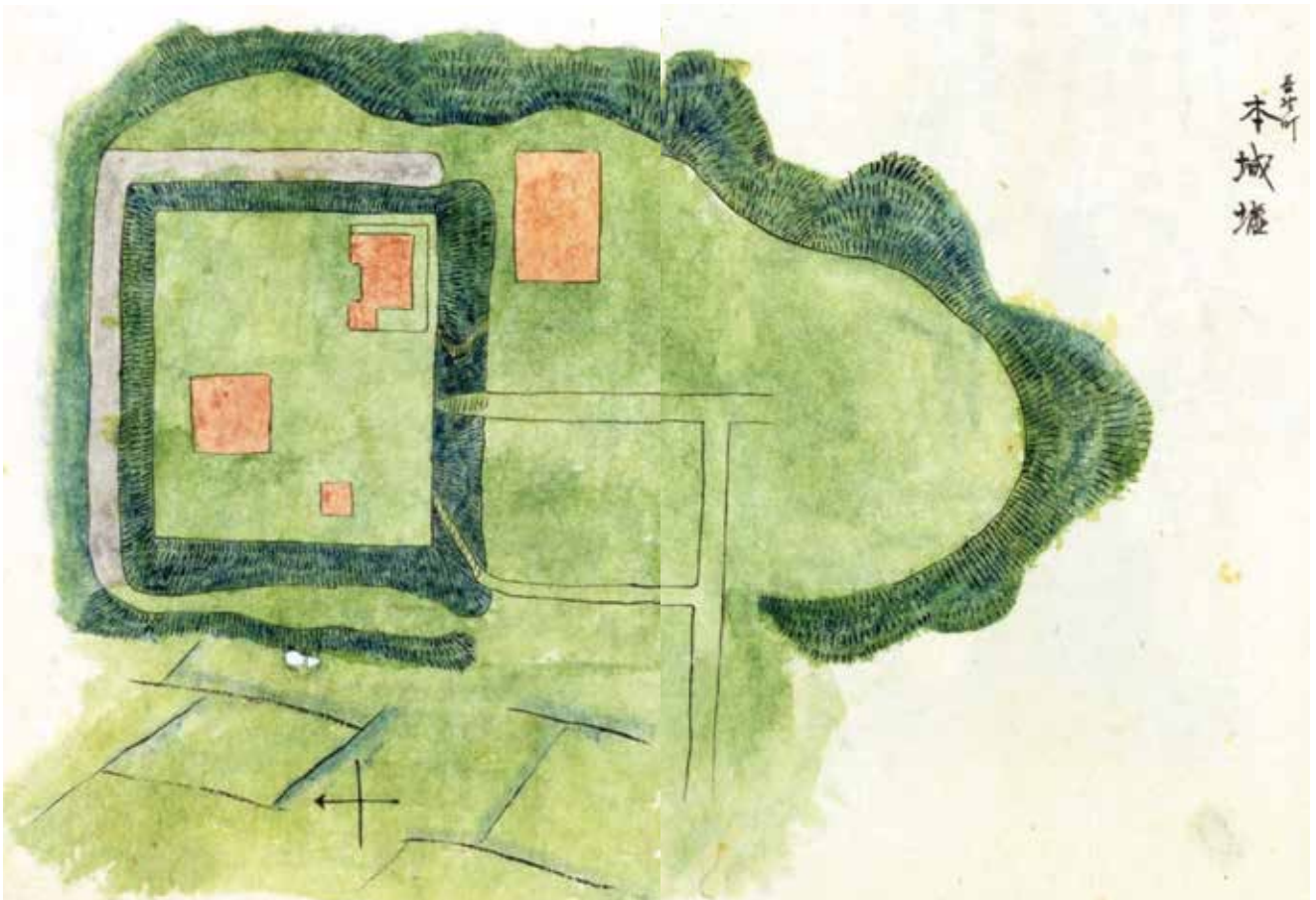
左が北で、善光寺は下部の方角になります。左側の方形の部分为本丸で、一段高くなっています。右側(南側)の低い部分が二の丸です。実際にはさらに南北(両側)に曲輪くわが連なっているとされていますが、ここには描かれていません。

### 本丸跡(1)

本丸跡は南北より東西の方がやや長い長方形で、その外側には北側から東側にかけて空堀からぼりが描かれていますが、現在はこうした構造は見られません。

本丸内の北部に正方形に描かれているのは、健たけ御み名な方かた富とみ命のみこと彦ひこ神かみ別わけ神社(城山県社・水内大社)の社殿です。この神社は元は善光寺本堂の背後にあった年神堂でしたが、明治初期の神仏分離令によって善光寺から分離し、明治12年(1879)にここに神社としてまつられました。江戸時代にはこの場所に、毘沙門堂がまつられていました。

社殿の南西(右下)にも小さな建物が描かれています。これは境内社の千幡社です。江戸時代にはここに愛染明王がまつられていて、染め物業者などによって信仰されていましたが、毘沙門堂が神社に置き変わったことにより、同様に神社となっ



『水内郡古跡名勝絵図』(長野県立歴史館蔵)より「本城墟」の図



たのです。

### 本丸跡 (2)

本丸跡の南東隅(右上)にも建物が描かれています。単純に描かれた神社とは違って、やや複雑な建物のようです。これは明治天皇の行幸のために明治11年(1978)に新築された行宮です。同年9月9日午後、明治天皇はここから善光寺平の眺望を楽しまれ、「佳き眺めや」と仰せになったと

いうことで、この建物は「佳郷館」と名付けられました。しかし明治24年(1891)に焼失し、現存していません。

### 二の丸跡

二の丸には善光寺方面から続く直線の道路が描かれています。これは明治11年(1878)の明治天皇の行幸に合わせて造られた道です。現在は東側(上部)に延長されて掘りくぼめられ、二の丸を分断していますが、本来の二の丸は水内大社から城山公民館方面まで一続きの広い平面だったのです。

二の丸の北東部に、大きな長方形の建物が描かれています。これは料亭の四宜楼です。2階建ての建物で、眺望を売り物にしていました。「四宜」とは、春夏秋冬いずれも宜しいという意味です。漢詩人の大窪詩仏(1767~1837)が書いた「信中第一楼」という額を掲げていました。

### 横山城

鎌倉時代の善光寺門前には、信濃の国衙や守護所が置かれていました。横山城はそのための山城として築かれたという説があります。南北朝時代の至徳4年(1387)、村上頼国らが横山城に籠る守護代の二宮氏泰を攻めるとい合戦がありました。

戦国時代には、上杉と武田が争った川中島の戦いで使用されました。弘治元年(1555)の合戦では、上杉謙信がここに陣を置き、犀川の南に陣を置く



段上(本丸跡)にまつられた健御名方富命彦神別神社。手前は二の丸跡

武田信玄や旭山城に籠る栗田氏などに対抗しました。横山城跡の毘沙門堂は、謙信が毘沙門天をまつたことに始まるという説があります。

### 文化の拠点

江戸時代の横山城跡には、毘沙門堂の境内に善光寺大勧進の別荘があり、文人墨客の集まりなどに使用されました。俳人小林一茶が訪れた記録もあります。明治11年(1978)に出版された『善光寺繁昌記』によると、料亭の四宜楼もそのように利用されていました。

明治20年(1887)には、現在の城山公民館の場所に城山館が建てられ、公会堂として使用されました。明治29年(1896)には福沢諭吉が、明治32年(1899)には伊藤博文が、ここで講演しています。

明治41年(1908)には城山一帯を会場に、一府十県連合共進会という産業博覧会が開催されました。戦後も昭和24年(1949)の平和博覧会と、昭和36年(1961)の産業文化博覧会の会場となりました。測候所(明治22年)、市営球場(大正15年)、NHK長野放送局(昭和6年)なども置かれ、長野の文化の拠点となってきました。

4月号は「長野駅周辺」の予定です。

この頁は長野信用金庫のホームページでカラーにてご覧いただけます [長野信用金庫](#) すかい

◆生活の「悩みや不安」

「物価高」49% 「自分や家族の健康(新型コロナを含む)」37% 「家計の収入」20%  
 「老後の生活費」16% 「子供の教育費」12% 「家族の生活(結婚・就職・介護などの問題)」12%

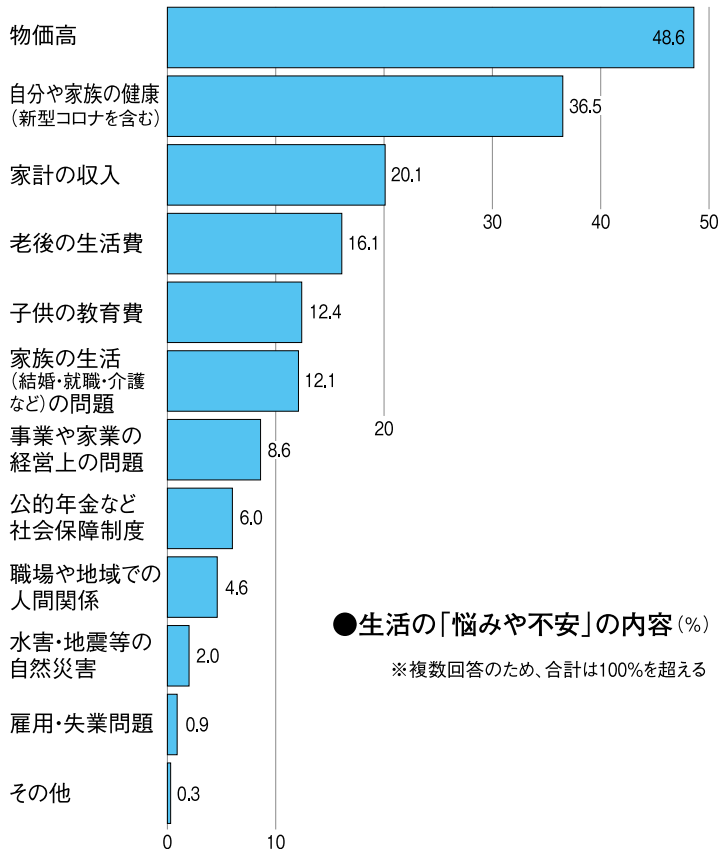
「生活の中で悩みや不安を感じている」と答えた69%の人に、その「悩みや不安の内容」を聞きました。

全体の1～3位を見ると、1位は「物価高」で49%、2位は「自分や家族の健康(新型コロナを含む)」が37%、3位は「家計の収入」が20%となっています。

男女別で1～3位を見ると、男性、女性ともに全体と同じ結果でした。

世代別で見ると、全ての世代で1～2位は「物価高」「自分や家族の健康」となっていますが、3位は10～20代と30～40代が「家計の収入」、50代以上は「老後の生活費」という結果となっています。

(当金庫・2022年12月調査)



●みなさまの税務相談のご案内 [4月]

(注)上の店名は開催場所、下の( )内店名はその相談日に含まれる対象店です。

開催日	午前	午後	開催日	午前	午後
4月 4日 火	若槻支店 (城北支店)	東長野支店 (柳原支店)	4月 19日 水	権堂支店 (善光寺下支店)	川中島支店 (川中島駅前支店)
6日 木	太子町支店 (須坂・墨坂支店)	豊野支店	21日 金	中野支店 (小布施支店)	山ノ内支店 (飯山支店)
11日 火	長池支店 (大豆島支店)		25日 火	大門町支店 (桜枝町支店)	飯綱支店
12日 水	石堂支店 (伊勢宮支店)	七瀬支店 (南支店)	26日 水	本店営業部	古里支店 (吉田支店)
13日 木	稲荷山支店 (屋代支店)	上山田支店 (戸倉支店・坂城支店)	27日 木	本 部	
18日 火	篠ノ井支店 (川柳支店)	松代支店 (更北支店)	28日 金	本 部	

